

令和8年度研修講座の紹介

【基礎研修】

基礎研修は、教職員のキャリアステージに応じて、初任者及び新規採用教員研修、フォローアップ研修、中堅教諭等資質向上研修としてのキャリアアップ研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを悉皆で実施します。

【専門研修】

専門研修は、学校経営や学校運営に関する特定分野において、専門性を高めることを目的とした研修です。7講座を開設します。

【課題別研修】

課題別研修は、今日的教育課題への対応と職務実践力の向上を図ることを目的とした研修です。新規2講座を含む9分野74講座を開設し、幅広いニーズに応じた学びの機会を提供します。

基礎研修と専門・課題別研修は、それぞれ受講対象者や申込期限が異なります。詳細については、「研修のしおり」（3月下旬ホームページ掲載予定）を御確認の上、お申し込みください。

【出前講座】

出前講座は、総合教育センターの所員が、対面やオンラインで、校内研修や市町教育委員会が主催する研修等を支援するものです。学校運営、各教科等、人権・同和教育、情報教育、生徒指導・教育相談、幼児教育、特別支援教育、保健室経営などのテーマを設け、ニーズに合わせた講座を実施します。新規1講座を含む46講座を開設予定です。

【放課後ミニ研修】

放課後ミニ研修は、放課後などの短い時間を活用し、教職員の学びを支援します。短時間のライブ配信やオンデマンド動画など、気軽に参加していただける内容を準備しています。詳細は、「学校支援事業リーフレット」（4月上旬予定）を御確認ください。

総合教育センターホームページのURL
<https://center.esnet.ed.jp/>



全国教員研修プラットホーム【Plant（プラント）】について

全国教員研修プラットフォーム「Plant（プラント）」は、独立行政法人教職員支援機構が運用、管理する、研修申込みや受講履歴の記録等が一体となったシステムです。Plant ログインIDを利用して申込みを行った研修は、自動的に受講履歴に記録されます。県教育委員会が実施する研修以外（市町教育委員会の研修、教育団体と共催の研修、校内研修、自主研修など）は、個人のアカウントにより記録することができます。

Plant ログインIDに関する内容は、令和6年7月25日付け6媛教セ第713号、利用対象者については、令和6年9月26日付け6媛教セ第906号を参照してください。これらは、ホームページにも掲載しています。

なお、年度当初に次の点について確認をお願いします。

- 氏名と職名に変更があった場合は、必ず各自で修正してください。
※登録した氏名と職名が受講者名簿にそのまま反映されます。
- 所属の変更は、センターが行います。異動による所属の変更が反映されない場合は、御連絡ください。
※間違った所属で研修申込みをした場合、本人が一旦キャンセルし、所属変更後に再度申込みをしてください。
- 年度途中から勤務となった方は、センターで新規登録を行います。氏名、職員番号をお知らせください。
- 電子メールアドレス変更等により、認証コードが届かなくなった場合は、センターへ御連絡ください。
※電子メールアドレスを二つ登録しておく、御自身による対応が可能になります。

【Plantに関する問合せ】電子メールアドレス（専用） kenshu-s@school.esnet.ed.jp

TEL 089-963-3113（内線：507） 089-909-7420（企画開発室）



若手教員支援について

センターでは若手教員のみなさんの支援を行っています。経験の少ない教員の授業参観や個人面談を行ったり、「出前講座」の際に個別に相談に応じたりしながら、学習指導・生徒指導・コミュニケーションなどに関する悩みや不安の解消・軽減に努めています。また、幼児、児童生徒、発達が気になる子どもに関する相談ができる場を設け、一緒に考える取組も行っています。若手教員のみなさん、悩みや不安を一人で抱え込まず、ぜひ、センターの支援を御活用ください。これからも、みなさんの未来を応援していきます。

総合教育センター相談窓口の情報 URL <https://center.esnet.ed.jp/wakate>



交通安全推進メールマガジンの配信について

これまで、各校が取り組まれた交通安全推進研修会の取組事例や交通安全に関するサイトの情報等を紹介してまいりました。今後も有益な情報の発信に努めますので、教職員の交通事故・交通違反の撲滅を目指し、交通安全研修に積極的に活用していただければ幸いです。



育心拓夢

○教育開発部長挨拶……………1
○令和7年度調査・研究発表会について……………1
○令和7年度調査・研究の概要……………2・3
○令和7年度高等学校理科研修講座研究の概要…2・3

愛媛県総合教育センター所報 No.174
(令和8年3月13日発行)
<https://www.center.esnet.ed.jp/>
〒791-1136 愛媛県松山市上野町甲650番地
TEL 089-963-3111(代) FAX 089-963-3146

○令和8年度研修講座の紹介……………4
○全国教員研修プラットフォームについて……………4
○若手教員支援について……………4



子どもたちと教師のための 「学び」の問い直し

教育開発部長 渡部 和寛

授業改善の視点としての「主体的・対話的で深い学び」や、「令和の日本型学校教育」を担う教師像としての「新たな教師の学び」など、教育活動や教職員研修の場では、「学び」そのものを問い直しアップデートしていく取組が続いています。さらに、これまで「人が人を教えることの意義は揺るがない」と考えられてきた教育の世界も、AI時代の到来によって、学校や教師の在り方だけが例外ではいられなくなりました。私たちは、学校や教師の役割、それを支えるセンターの役割への問い直しに直面しています。「学び」への問い直しは、こうした文脈の中でも検討が必要な課題だと言えるかもしれません。

「学力」とは、学習した結果として身に付けた知識・技能の量ではなく、「学ぶ力」だという指摘もあります。このように、「学び」への問い直しは、何を身に付けるかという内容論、どのように学ぶかという方法論、何のために学ぶかという目的論など、多岐に

わたる総合的な課題となっています。教師と児童生徒との関係についても、「教える—教わる」という一方の方向の関係から、子どもの学びに寄り添う伴走者としての教師像では、相互性や対等性の関係が重視されています。教師には、教えるプロとしてだけでなく、学ぶプロとしての新たな自覚が求められているのです。

先日センター調査・研究発表会でも、「新たな教師の学び」が大きなテーマの一つでした。私たちが大切にしているのは、学び続けるセンター所員像であり、研修を協働的で創造的な行為として捉える研修観です。そして何より、「学びは楽しい」ということです。主体的に学び続ける教師像につながる研修であるためには、「学ぶことの楽しさ」を実感できる場であることが不可欠だと考えています。

少し風呂敷を広げれば、「学び」への問い直しは、新たな学びの文化を創る試みだと捉えることもできます。学校で得た知識・技能が豊かな人生を保証するという考え方は一面的であり、「学び」そのものに価値や幸せを見いだすという、学びと生き方の新たな関係づくりが、学校やセンターに求められているのです。友達や先生と学ぶために「明日も行きたくなる学校」をつくること。そのために、教師自身が新たな学びの文化を育てていくこと。センターは、その実現に寄与していきたいと考えています。

令和7年度調査・研究発表会について

2月10日に、集合とライブ配信を併せたハイブリット形式で開催し、130名を超える学校関係者の皆様に御参加いただきました。

研究主題「未来を切り拓く力を育む学校教育への総合的な支援」の下、情報教育室、教科教育室、特別支援教育室による三つの発表を行いました。各発表に対して、参加者からの熱心な質問が続き、充実した時間となりました。

講演は、星槎大学大学院教授の阿部利彦先生を講師に招き、「教育のユニバーサルデザイン化—誰もが安心して学べる授業づくり、学級づくり—」と題し、特別な教育的ニーズがある子どもだけでなく、全ての子どもたちが安心して学ぶために、大切にしなければな

らないユニバーサルデザインの考え方についてお話をいただきました。教室環境はもちろん、子ども同士が支え合い育ち合う環境、すなわち、人的環境を整えることの意味を深く考えさせられる時間となりました。

参加者からは、「個別の支援に目が行きがちだが、集団に有効な支援を考えていきたい。」「教師の言動の大切さを改めて実感した。」「分からないことを分からないと言える雰囲気をつくっていきたい。」「子どもの集団肯定感を高められるような授業を行ってきたい。」などの感想が寄せられました。





令和7年度 愛媛県総合教育センター調査・研究の概要

〔研究主題〕 未来を切り拓く力を育む学校教育への総合的な支援

教科教育室

若手・中堅教員の授業力向上につながる研究実践報告

ー理論と実践の往還を重視した支援と成果のアウトプットを通してー

「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現に向け、昨年度の研究の伴走型支援を充実させながら、研修参加者の授業力向上を目指して、継続して研究に取り組みました。

新居浜東高等学校白石千明教諭による実践では、高等学校理科研修講座で指導主事と対話しながら進めた実験の成果を、勤務校での指導に生かし、自主性を尊重することで、生徒の主体性や科学的思考力が育成されました。

伊予市立中山中学校横山勇二教諭による実践では、数学的な見方・考え方を働かせる数学的活動を重視することで、生徒に統合的・発展的に考察する力が育成されました。

今後も、研修参加者が自律的に学びを深められるよう、支援の一層の充実を図っていきたいと考えています。



情報教育室

ICT活用スキルと授業力の向上につながる教師の主体的な学びの支援

ー目標設定と振り返りを重視した研修プランの開発を通してー

本研究では、ICT活用スキルと授業力の向上につながる、教師の主体的な学びを支援する研修プランを開発しました。1年次は、研修デザインシートの作成や個人目標の設定、振り返りを取り入れた、研修効果の有用性を確認した一方、個人目標の設定の時期や内容、振り返りの質的向上の課題が明らかになりました。2年次は、その改善を図り、次の三つが本プランの重要な要素であることが分かりました。一つ目は、参加者が何を学びたいのかを明確にするため、個人目標を設定する場を設けることです。二つ目は、これまでの実践と学んだことを結び付ける機会を設けることです。三つ目は、自己の在り方に関する気付きを促すリフレクションの時間を確保することです。今後、本研究成果を踏まえ、研修の更なる充実に努めていきます。



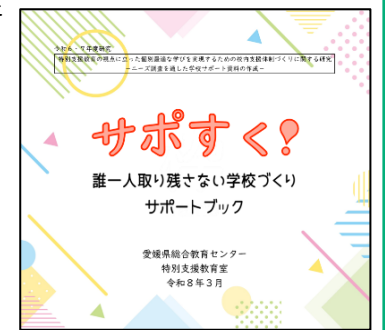
特別支援教育室

特別支援教育の視点に立った個別最適な学びを実現するための校内支援体制づくりに関する研究

ーニーズ調査を通じた学校サポート資料の作成ー

現在、全教職員で組織的に対応する校内支援体制の確立など、特別支援教育の更なる充実が求められています。そこで、個別最適な学びの実現に向けた取組や校内支援体制など組織づくりに関するニーズを明らかにし、それに基づく資料を作成、提供することで、誰一人取り残さない学校づくりを支援することを目的に、2年間継続の研究として取り組んできました。

昨年度は、アンケート調査を行い、管理職及び教職員の校内支援体制等に関するニーズや課題を明らかにしました。本年度は、それらを基に、学校サポート資料「サポすく！誰一人取り残さない学校づくりサポートブック」を作成しました。今後、ホームページに掲載する予定です。



企画開発室

「新たな教師の学びの姿」を実現する校内研修の在り方

ーIRSを活用した省察と対話を通してー

教師が主体的に校内研修に取り組み、新たな知識や技能を得るだけでなく、経験を基に探究的に学び合う校内研修の在り方を研究するとともに、インタラクティブ・リフレクション・シート（IRS）を活用した省察と対話を通じた校内研修について、調査・研究を行うこととしました。

アンケート調査を実施し、時間に制約のある中で、校内研修において省察や探究的な学びの機会を取り入れたいというニーズを確認することができました。また、探究型の研修において、研修参加者が、互いの価値観を共有することができるカードを開発しました。

センターにおける研修でカードを活用した結果、参加者間の対話が活性化する効果を確認することができました。



教育相談室

教育相談に関する自己研修資料の開発

ー教職員の基礎的な教育相談スキルの向上に向けてー

本室では、2年間継続研究の1年目として、教育相談に関する自己研修資料の開発を目指し、基礎研修受講者を対象にアンケート調査を実施しました。調査の結果、教育相談に関する研修の受講経験、受講意向、研修内容のニーズ、教育相談の実施状況について、包括的に実態を把握することができました。これらの結果を踏まえ、短時間で、自己のニーズに合わせて柔軟に利用できるオンデマンド動画及びハンドアウト資料作成の構想を検討しました。

2年目に向けて、オンデマンド動画及びハンドアウト資料の試作を行うとともに、自己研修資料の効果検証の方法について検討し、教職員が基礎的な教育相談スキルを継続的に学ぶことができる自己研修資料の開発を目指します。



センター研究の成果について

センターの研究成果物はホームページからダウンロードすることができます。ぜひ、御活用ください。

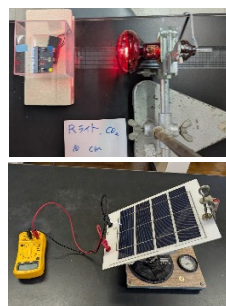
URL
https://center.esnet.ed.jp/kenkyu_top/seikabutsu



高等学校理科研修講座受講者

気象分野における定量的な実験教材の開発～見えないエネルギーの可視化を目指して～ 新居浜南高等学校 勝田 雅典

地学基礎で扱う太陽放射や温室効果について、エネルギーを可視化することで、実感を持った理解を促す教材を開発しました。温室効果の実験では、モデルの検討を通して、既存の実験方法の課題を確認しました。また、太陽放射の実験では、自作教材を用いた授業実践を通して、生徒に太陽光の入射角度と地面の温まり方との関係を視覚的に理解させるとともに、日射計やソーラーパネルを用いた太陽エネルギーの測定方法についても検討しました。



珪藻組成の分析に基づく加茂川の水質調査 西条農業高等学校 吉田 美沙紀

西条市の加茂川で、四つの調査地点を設定し、水質調査を実施しました。パックテストを用いた水質調査では、強腐水性を示した調査地点もありましたが、同日に同地点で採集した珪藻組成の分析に基づく水質調査の結果は、貧腐水性を示し、加茂川の水質は良好であることが示唆されました。珪藻群集は数週間から数か月にわたる水質環境を反映する特徴を持つことから、調査地点の水質の変化をより正確に反映する可能性が示唆されました。



高大接続を見据えた新たな実験教材の開発とその実践方法の検討 松山南高等学校 目見田 拓

平成30年告示の学習指導要領への改訂により、化学は、「エンタルピー」や「エントロピー」といった熱力学の概念が新たに導入されました。そこで、これらの概念を取り入れた教材として、鉄イオン濃度比を変えることで、起電力の値や符号が変化する電池の教材を開発し、高大接続を意識した授業展開と教材の活用方法について検討しました。この教材を活用することで、講義中心になりがちであった単元において、探究的な実験を行うことができると考えます。



ゲルマニウムラジオの教材化

八幡浜高等学校 室川 晃輝

ゲルマニウムラジオを教材として実用化することを目的に、同調回路・検波回路・アンテナに必要な条件を検証しました。自作の可変コンデンサーとコイルによる同調回路を用いて、安定した選局と受信を可能にしました。また、アンテナの張り方や、ダイオード、イヤホンの特性の違いが受信感度に大きく影響することを確認しました。身近な材料で作製可能なラジオの追究とともに、信号波形の観察など授業での活用方法について、さらに検討したいです。

